



創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する
ソリューションデザインカンパニー

2022年3月期

萩原電気ホールディングス株式会社
(東証プライム・名証プレミア 7467)

2022年6月3日

2022年3月期 決算概要

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は過去最高更新

- 売上高は、**前期比23.9%増の1,584億円**で過去最高。
顧客の生産台数増加や商流移管などで、国内海外ともに成長。
- 利益面では、売上増加に伴う物流費等の増加があったものの、営業利益は**前期比25.6%増の43億円の最高益**を達成。

2023年3月期 業績予想

売上高は過去最高の1,870億円を目指す

- デバイス事業、ソリューション事業ともに成長の見込み。
- 成長を目的とした投資などを計画。前期のスポット案件利益の反動減等を織り込み、営業利益は1.3%減の43億円の見込み。

中期経営計画 進捗

重点施策に着実に取り組み、初年度は順調なスタート

- 初年度業績を踏まえ、概ね順調なスタートと評価しており、今期以降も各施策に地道に取り組む方針。

当社の特徴(主要事業)

- 自動車向け半導体ビジネスと製造業を中心としたお客様向けのデジタルソリューションビジネスに注力。

デバイス事業

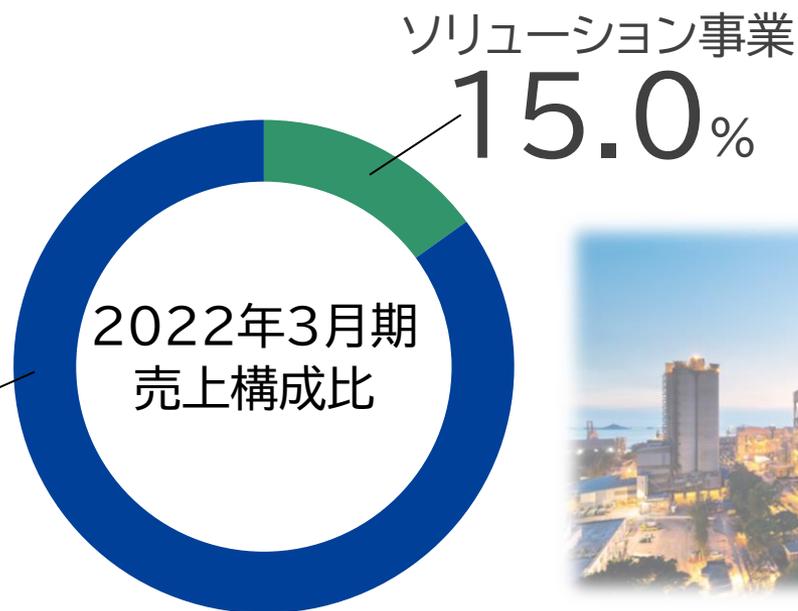
- ・自動車関連企業向けを中心とした半導体や電子部品の販売
- ・組込ソフトウェア／ハードウェア開発支援等の技術サポート

ソリューション事業

- ・IT機器や計測機器等の販売、ITプラットフォーム基盤構築の提案
- ・FAシステムや産業用コンピュータ等の設計開発・製造・販売



デバイス事業
85.0%

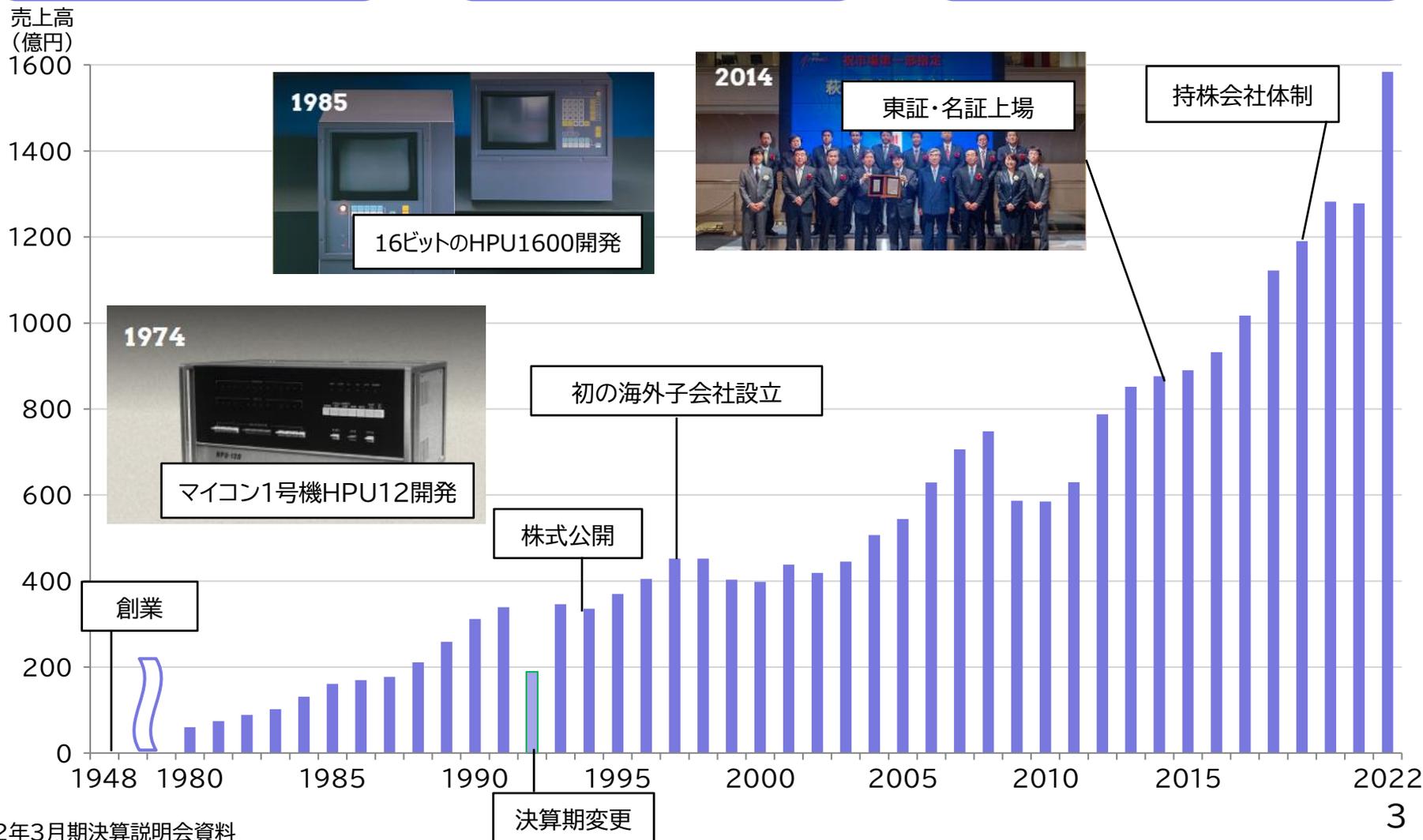


当社の特徴(売上推移)

公共施設の設備設置や、
電子部品販売など業容拡大

自動車のエレクトロニクス化の
波に乗り大きく成長

先進エレクトロニクスで
未来を創造する
ソリューションカンパニーとして発展



2022年3月期決算概要

2023年3月期業績予想

中期経営計画進捗

2022年3月期業績

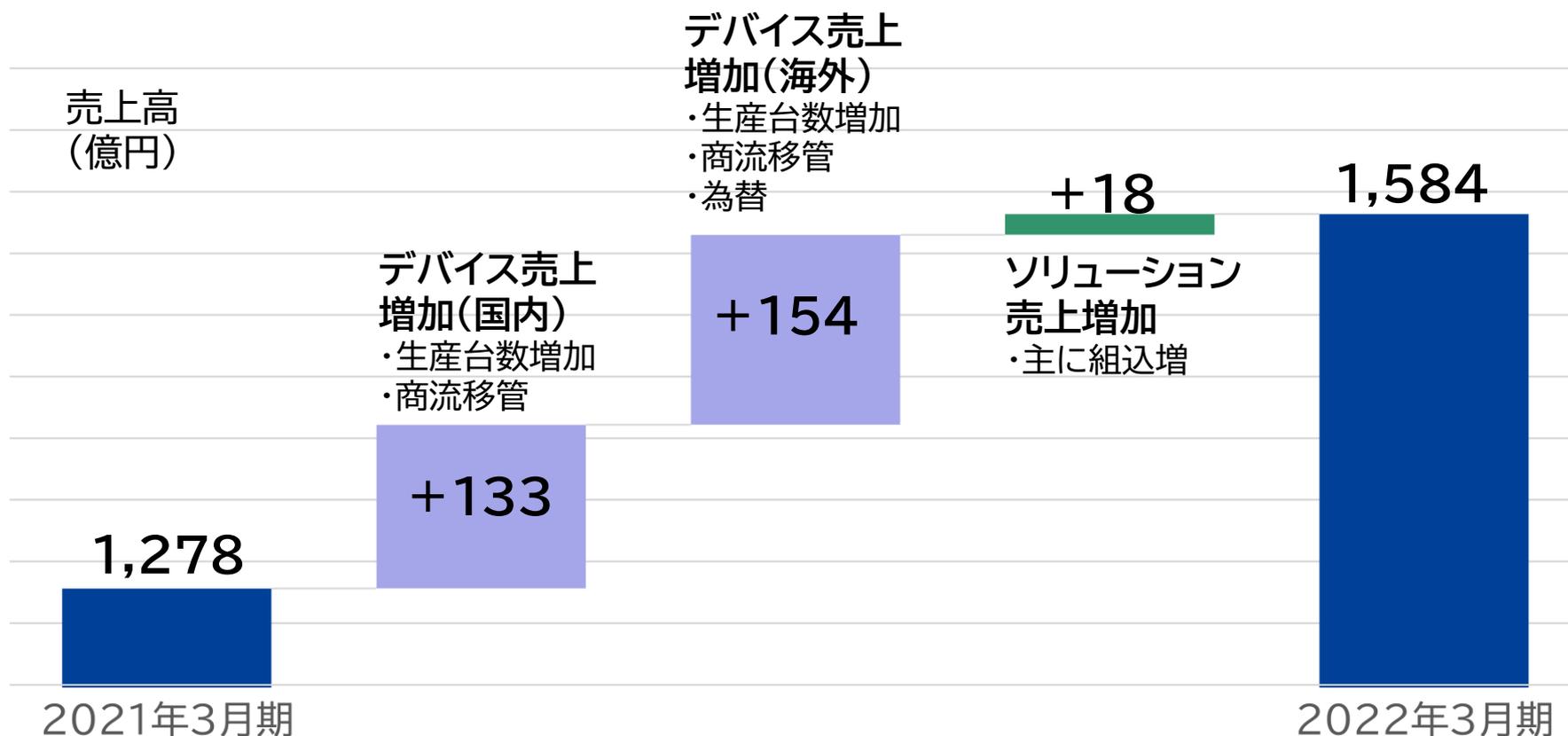
■ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益のすべてで過去最高を更新。

(単位:百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	127,830	100%	158,427	100%	+30,597	+23.9%
売上総利益	11,888	9.3%	14,612	9.2%	+2,723	+22.9%
販管費	8,420	6.6%	10,255	6.5%	+1,835	+21.8%
営業利益	3,468	2.7%	4,356	2.8%	+888	+25.6%
経常利益	3,556	2.8%	4,335	2.7%	+779	+21.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,314	1.8%	2,876	1.8%	+561	+24.3%
1株当たり当期純利益 (円)	261.82	-	325.07	-	+63.25	-

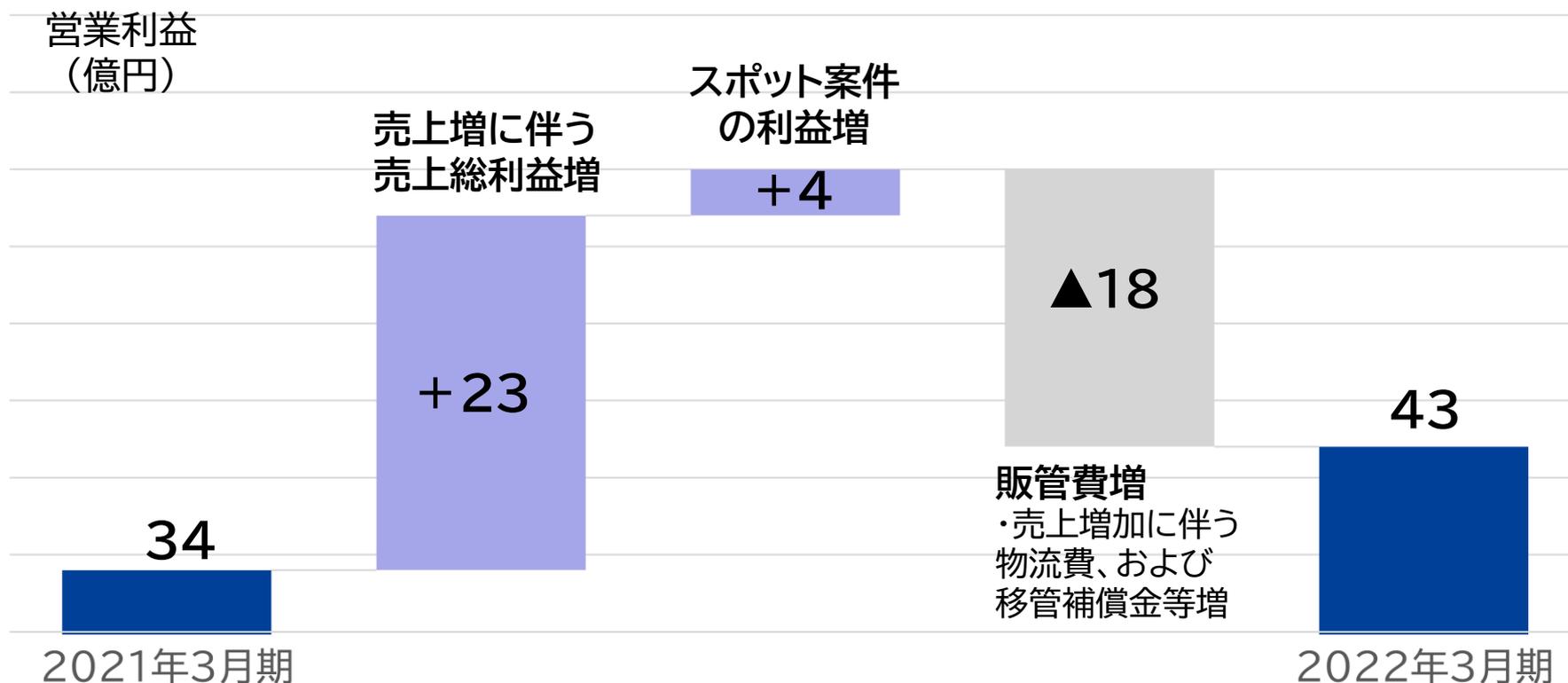
売上高の増加要因

- 前期比較で305億円増加。
- 主要顧客の生産台数増加に支えられ、デバイス事業の売上が国内、海外ともに好調だった。



営業利益の増減要因

- 前期比較で8.8億円増加。
- 売上増加に伴う物流費・移管補償金等の増加があったが、その他の経費抑制に努めることで、販管費率は0.1ポイント低減した。

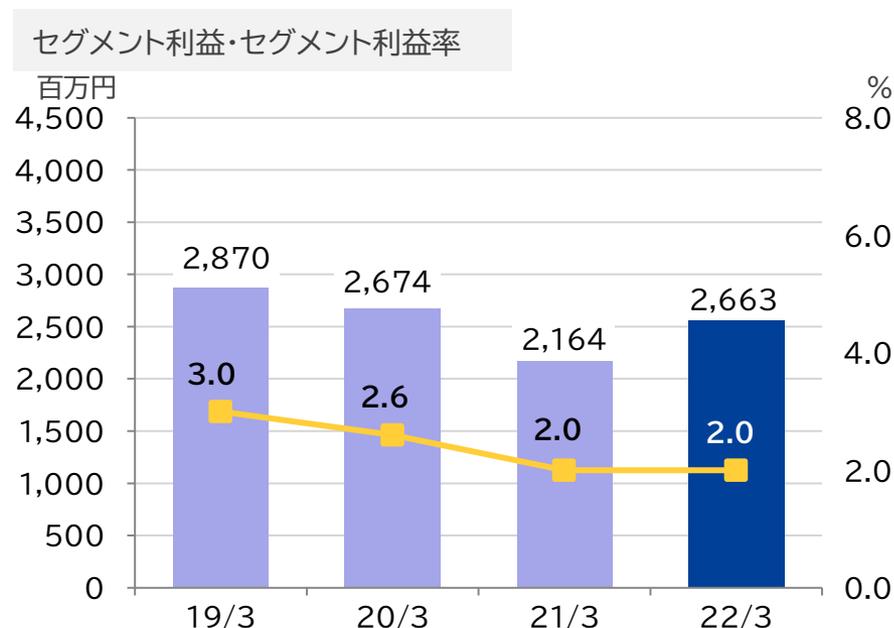
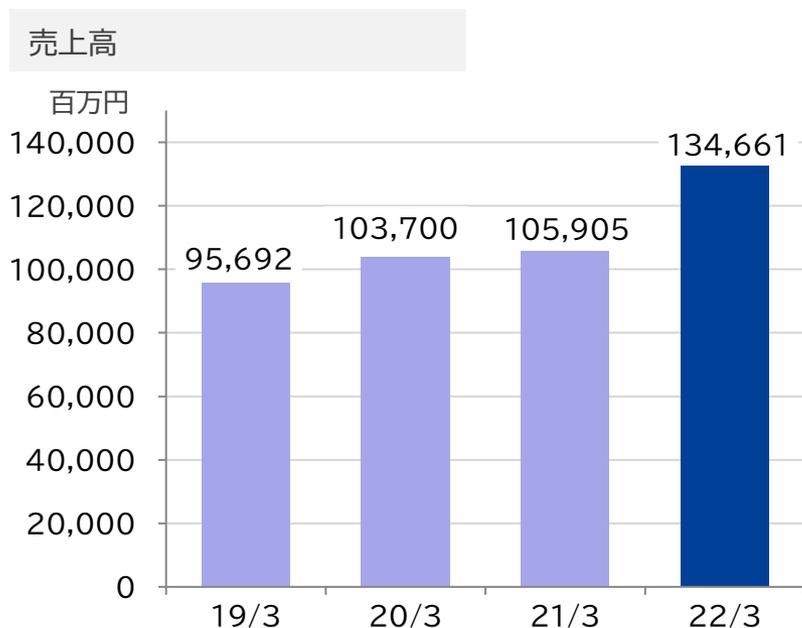


デバイス事業 業績概要

- 顧客の生産数増加や商流移管により、売上高は287億円増加。
- 売上に連動し物流費や移管補償金が増加したものの利益も約5億円増加。

(単位:百万円)

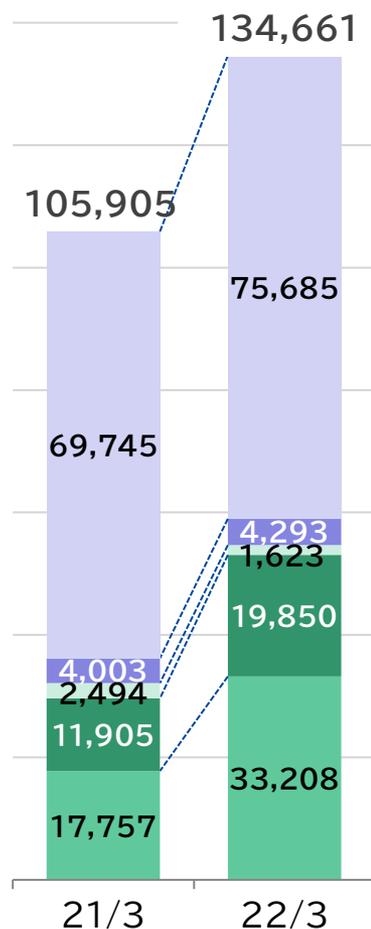
	2021年3月期		2022年3月期				(参考) 収益認識基準変更の 影響を除く	
	金額	構成比	金額	構成比	前期比			
売上高	105,905	100.0%	134,661	100.0%	+28,755	+27.2%	134,665	+27.2%
セグメント利益	2,164	2.0%	2,663	2.0%	+499	+23.1%	2,664	+23.1%



デバイス事業 得意先別売上高前期比較

- デンソー様を含む主要得意先の売上が増加。
- 得意先の海外調達増により海外売上が増加。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

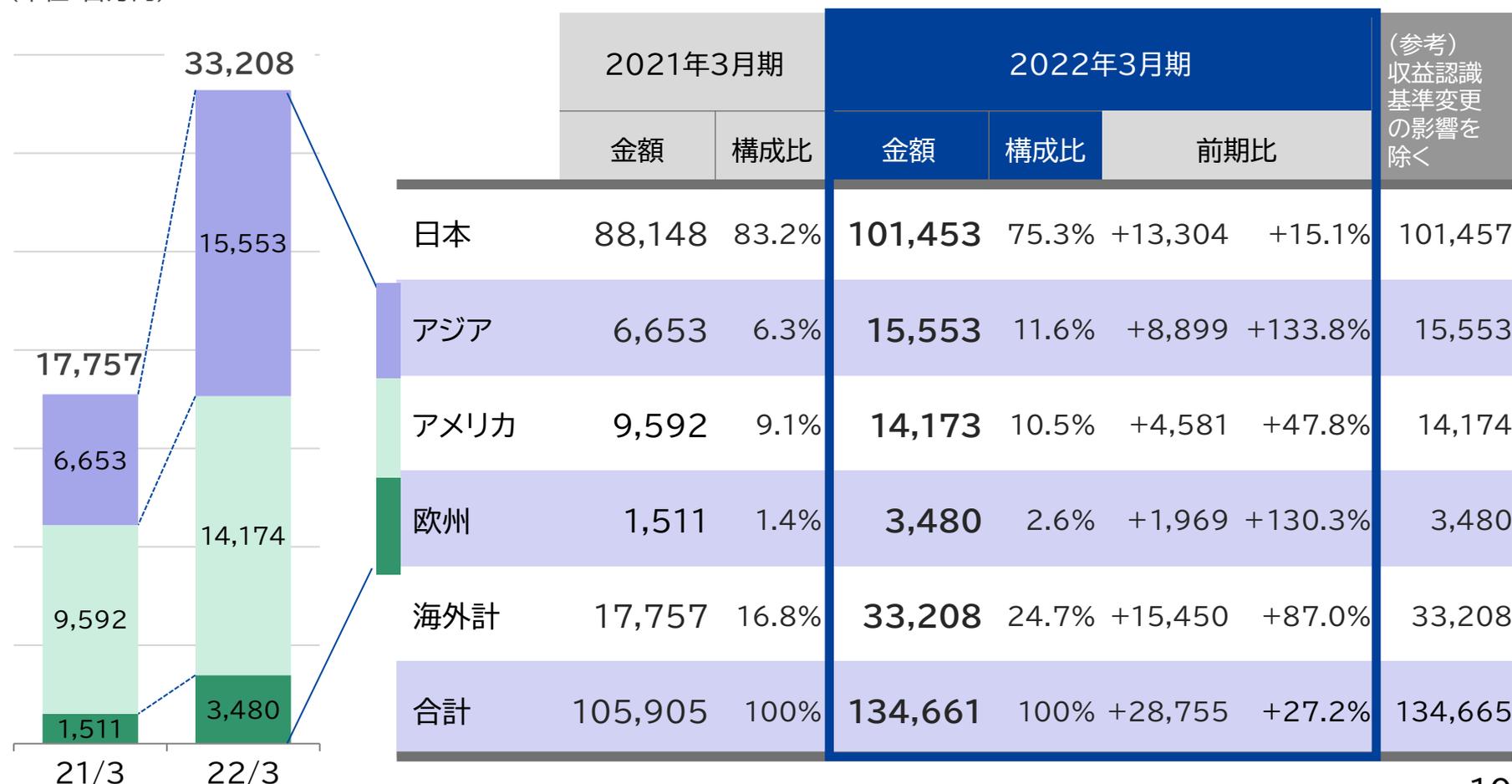
	2021年3月期		2022年3月期			(参考) 収益認識 基準変更 の影響を 除く
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
デンソー	69,745	65.9%	75,685	56.2%	+5,940 +8.5%	75,690
東海理化	4,003	3.8%	4,293	3.2%	+289 +7.2%	4,293
トヨタ自動車	2,494	2.4%	1,623	1.2%	▲870 ▲34.9%	1,623
その他	11,905	11.2%	19,850	14.7%	+7,944 +66.7%	19,850
海外拠点得意先	17,757	16.8%	33,208	24.7%	+15,450 +87.0%	33,208
合計	105,905	100%	134,661	100%	+28,755 +27.2%	134,665

デバイス事業 エリア別売上高前期比較

■ 国内、海外ともに好調。海外売上は、増加額154億円、増加率87%と大きく成長しており、デバイス事業全体の成長に貢献。

(単位:百万円)

(単位:百万円)



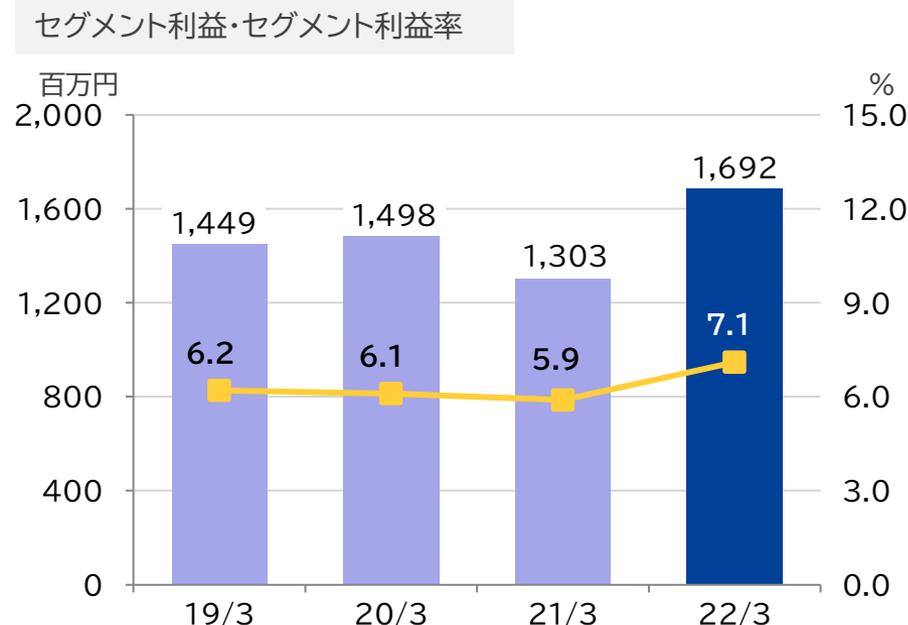
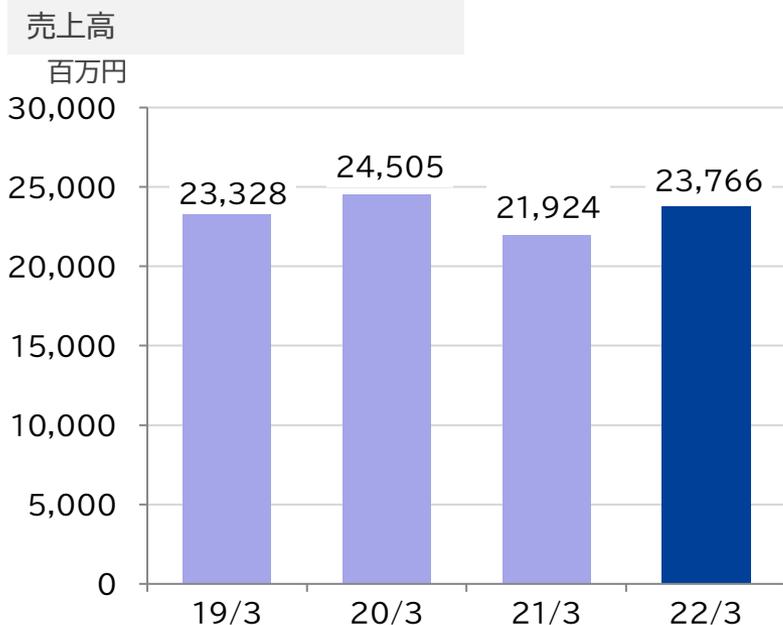
※地域名は拠点の所在地域(グループ内取引は除く)

ソリューション事業 業績概要

- 顧客の設備投資需要を積極的に取り込み、売上は18億円増加。
- 高付加価値なシステム受注などにより利益率が1.2ポイント向上。

(単位:百万円)

	2021年3月期		2022年3月期			(参考) 収益認識基準変更の 影響を除く		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比			
売上高	21,924	100.0%	23,766	100.0%	+1,841	+8.4%	24,280	+10.7%
セグメント利益	1,303	5.9%	1,692	7.1%	+388	+29.8%	1,731	+32.8%

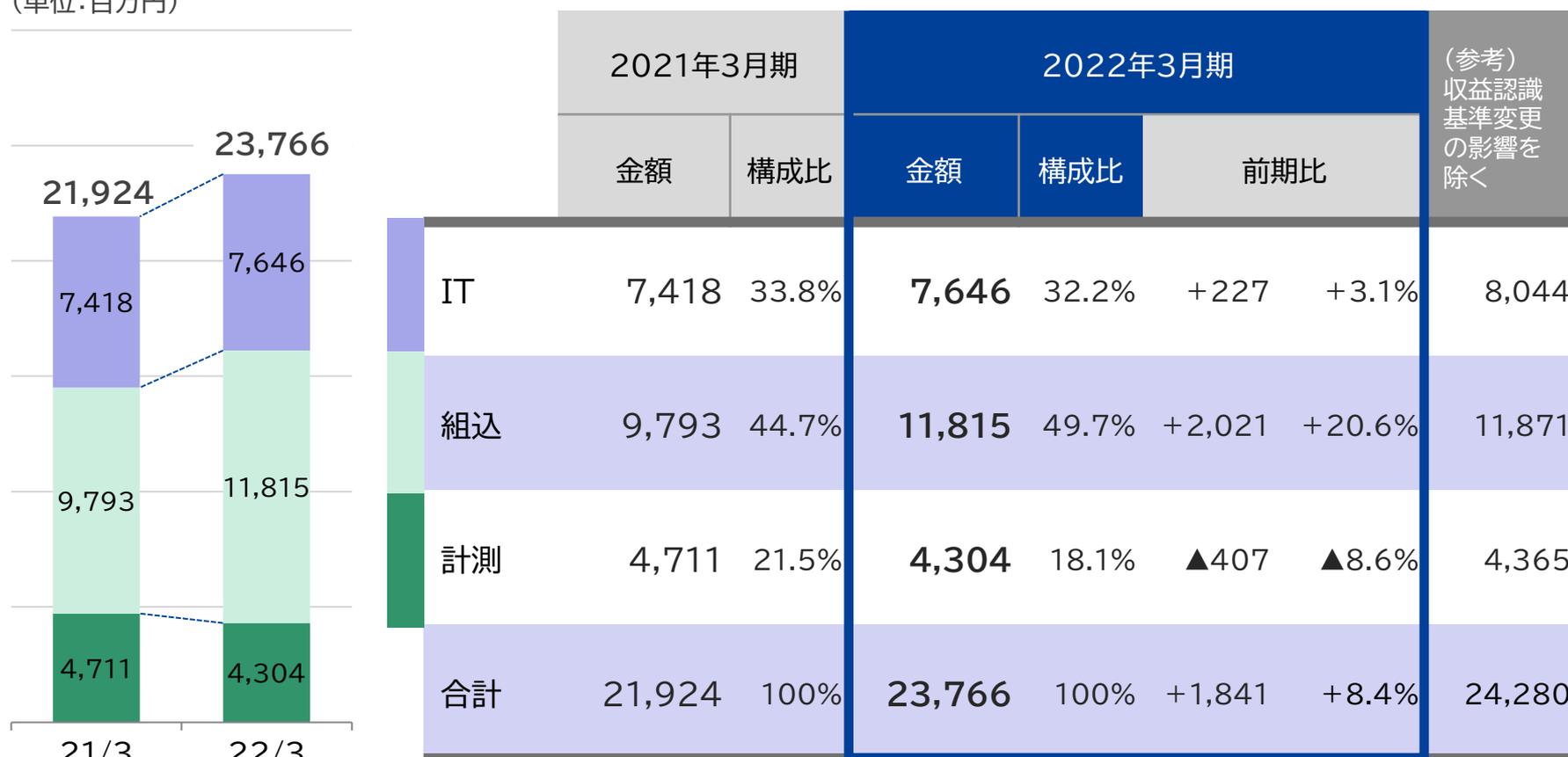


ソリューション事業 事業別売上高前期比較

■ 組込の売上が20億円増加し大きく成長。搬送・半導体設備等のお客様向け製品が好調だった。

(単位:百万円)

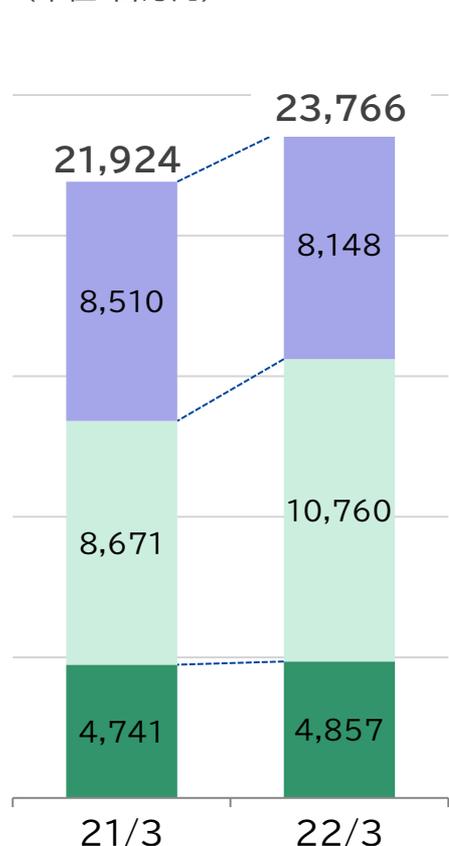
(単位:百万円)



ソリューション事業 業種別売上高前期比較

■ FA・産業機器のお客様向けの売上が20億円増加し大きく成長。中でも、搬送・半導体設備等のお客様向け製品が好調だった。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	2021年3月期		2022年3月期			前期比	(参考) 収益認識基準 変更の影響を 除く
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
自動車	8,510	38.8%	8,147	34.3%	▲362	▲4.3%	8,521
FA・産業機器	8,671	39.6%	10,760	45.3%	+2,088	+24.1%	10,845
その他	4,741	21.6%	4,857	20.4%	+115	+2.4%	4,913
合計	21,924	100%	23,766	100%	+1,841	+8.4%	24,280

2022年3月期業績

- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益のすべてで過去最高を更新。
- 1株当たり年間配当金は前期と比較し20円増配の100円。

(単位:百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	127,830	100%	158,427	100%	+30,597	+23.9%
売上総利益	11,888	9.3%	14,612	9.2%	+2,723	+22.9%
販管費	8,420	6.6%	10,255	6.5%	+1,835	+21.8%
営業利益	3,468	2.7%	4,356	2.8%	+888	+25.6%
経常利益	3,556	2.8%	4,335	2.7%	+779	+21.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,314	1.8%	2,876	1.8%	+561	+24.3%
1株当たり年間配当金 (円)	80	配当性向 30.6%	100	配当性向 30.8%	+20	—

2022年3月期決算概要

2023年3月期業績予想

中期経営計画進捗

2023年3月期業績予想

- デバイス事業、ソリューション事業ともに成長し、売上高は18%増の1,870億円を見込む。
- 成長を目的とした投資や、前期のスポット案件利益4億円の反動減などを織り込み、営業利益は1.3%減の43億円を見込む。

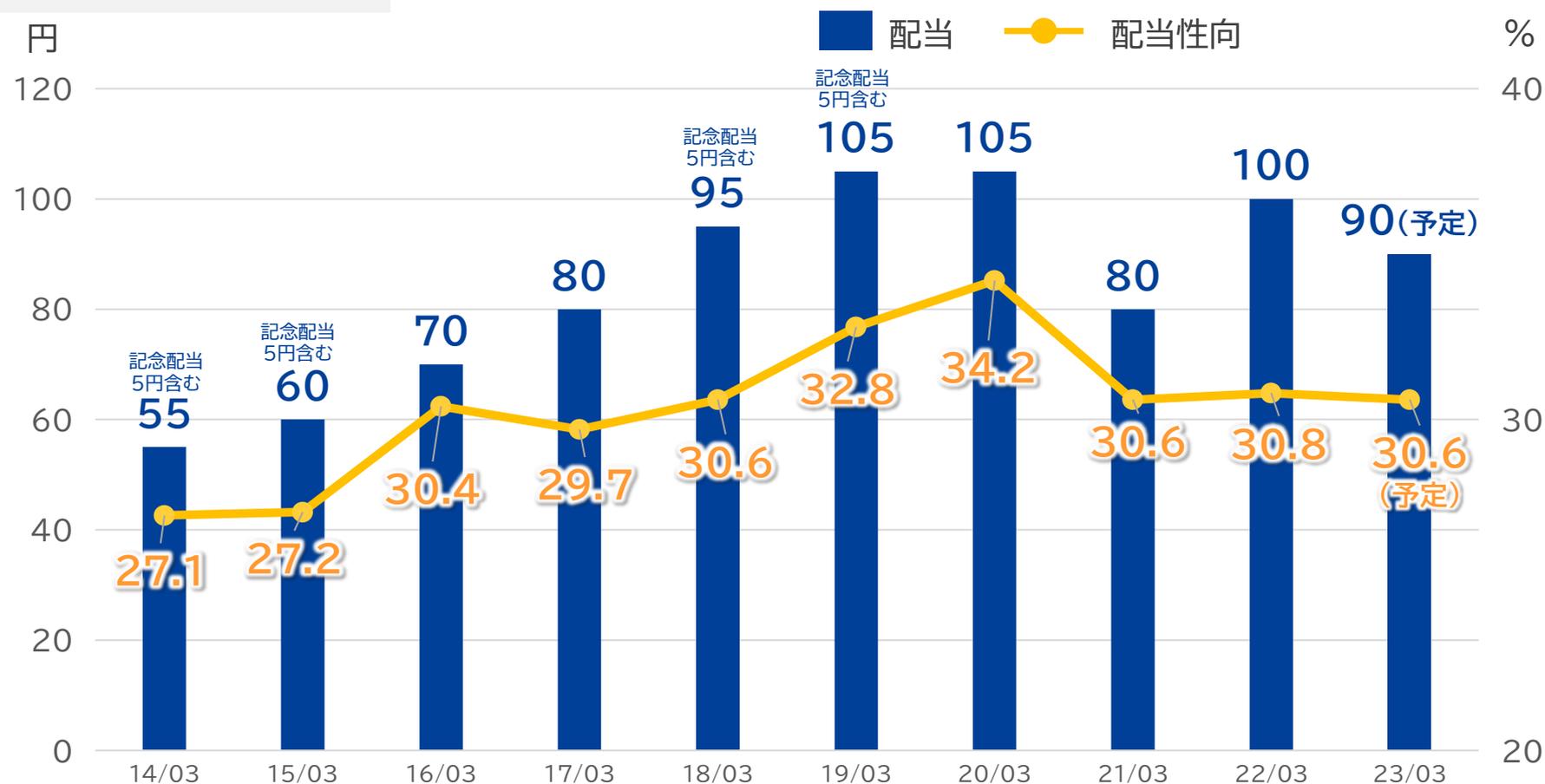
(単位:百万円)

	2022年3月期		2023年3月期(予想)		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	158,427	100%	187,000	100%	+28,572	+18.0%
営業利益	4,356	2.8%	4,300	2.3%	▲56	▲1.3%
経常利益	4,335	2.7%	4,250	2.3%	▲85	▲2.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,876	1.8%	2,600	1.4%	▲276	▲9.6%
1株当たり当期純利益 (円)	325.07	-	293.76	-	▲31.31	-

株主還元

- 2023年3月期は年間配当90円の予定。
- 配当性向30%を目途に安定的な配当を基本方針としている。

配当金および配当性向の推移



2022年3月期決算概要

2023年3月期業績予想

中期経営計画進捗

イノベーションによる価値創造と経営基盤強化により、企業価値を最大化

～SoCビジネスとソフトウェア・エンジニアリング・サービスによる価値提供～



モビリティ社会の発展に貢献する
エレクトロニクスカンパニー

～DXファクトリー統合サービス市場での
価値提供～



ものづくりを支える
エンジニアリングパートナー

～DX業務改革～



経営の高度化
と効率化

～企業変革～



ビジネスイノベーションによる
収益性の高い事業ポートフォリオを創出

～計数計画～



売上高
営業利益
ROE

1,700億円
50億円
8%

～従業員エンゲージメントの推進～



ビジョンを共有、従業員と
二人三脚で未来を創造

～企業価値の向上～



ステークホルダーの
信頼性と評価向上

～SDGs/ESG経営の推進～



社会課題の解決
への貢献

重点戦略: 4つの重点施策を推進

重点施策	①-1 デバイス事業	①-2 ソリューション事業
①コア事業拡大	[注力事業拡大] ● 車載SoC事業拡大 ● ソフトウェア・エンジニアリング 確立	[注力事業拡大] ● DXファクトリー統合サービス 市場での価値提供
②新高付加価値 事業創出	①-3 グローバルビジネス拡大 ● ビジネスイノベーション企画推進活動 ● エンジニアリングビジネス強化	
③事業基盤強化	● 全社プロジェクト活動によるDX推進 ↳ サプライチェーンマネジメント改革 ● プロフェッショナル人材育成 ● 従業員エンゲージメント向上 ● グループ運営の最適化追求	
④企業価値向上	● SDGs/ESG経営推進 ● 資本政策/財務戦略強化 ● ステークホルダーエンゲージメント充実	

中期経営計画進捗状況：コア事業拡大(デバイス事業)

■ 車載SoC事業拡大/ソフトウェア・エンジニアリング確立

◆機能別組織体制の構築

- ・業務品質を向上、効率化

◆PoC開発支援

- ・PoC開発受託専門チーム活発化
- ・お客様の開発を支援する自社製品販売、開発

◆AUTOSAR関連、MBD関連拡大

- ・AUTOSAR Classic、AUTOSAR Adaptive、AUTOSAR OS用ドライバ
- ・デバイス技術とMBD技術を活用し、SoCソフトウェア開発領域でのMBD、仮想環境シミュレーション環境活用を支援

◆Vehicle OSに対する取り組み開始

- ・SoCを軸とした開発環境構築の支援活動中
- ・Vehicle OSに関連したソフトウェアビジネスの開始

■ グローバルビジネス拡大

◆MaaS活用可能な技術を持つ米国スタートアップ企業へ出社

- ・位置情報高精度化ソフトウェアのECU組込を提案
- ・駐車予約や決済などの高精度位置情報を活用した新しいサービス開発により、MaaS関連市場への参入を狙う

DXファクトリー統合サービス市場での価値提供

◆製造業のお客様のDX実現課題の発見から解決支援までを一貫してサポートできるサービス提案

IT/OT関連部門を対象とした業務棚卸し
工場アセスメントサービス



アセスメント結果から
デジタル化の恩恵を最大化するため

DX化ロードマップ作成支援



ロードマップ作成後のRFP作成～受託開発まで対応可能

課題発見～戦略策定～手段の提供まで一貫してサポート

◆お客様製品の付加価値を高めるサービス提案

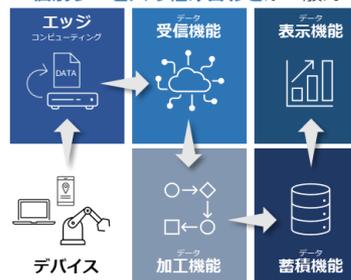
自社製品を用いてサービス提供を行うことを支援する
次世代クラウドIoT基盤

コトづくり支援サービス

例えば自動搬送装置に走行情報を収集し情報表示するサービスを付与し、製品とサービスを組み合わせるなどの付加価値創造が可能に。

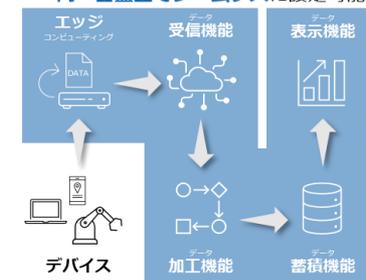
一般的なIoTサービス構築

個別サービスの組み合わせが一般的



コトづくり支援サービス

同一基盤上でシームレスに設定可能



ワンアプリケーションで構築と実装が可能

建機、産業車両向けのオリジナルソリューション提供

◆高精度AIカメラシステムを活用し、建設機械やフォークリフトの「人」と「モノ」を検知、接触事故の防止に貢献。

<産業車両用 人・モノ検知システム>

- ・高精度・高感度AIカメラシステムにより、様々な姿勢の「人」を高速検知。
- ・暗所や狭い室内でも、人・モノを高速・高精度で判別。
- ・自動校正機能搭載で、経年劣化に対応、ヘビーデューティー仕様にも対応。



<作業範囲内人検知AIモニタリングシステム>

- ・デジタルサウンドとAIでモニタリング、高速・高精度で人を検知して警告。
- ・上空からの視点でデジタルカメラのクリアな映像をリアルタイムに出力。
- ・高速・高精度AIで5m以内の人・モノを見分ける。

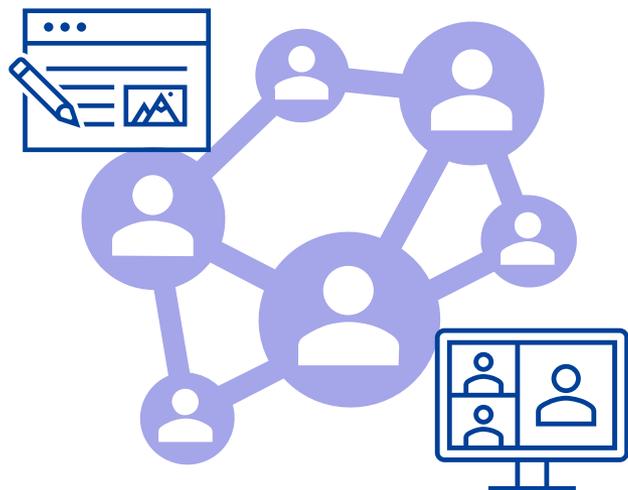


2022年5月25日～27日に幕張メッセで開催された「第4回建設・測量生産性向上展 (CSPI-EXPO)」に出展し、上記製品の外、最新技術・製品をデモンストレーションを交えてご紹介しました。



事業基盤強化

- ・社内DXプロジェクトの発足
- ・在宅勤務制度推進
- ・スーパフレックス制度導入
- ・人事関連システムの多機能化
- ・健康管理システム導入
- ・従業員エンゲージメント調査実施
- ・事業会社にて、SFAを導入



企業価値向上

- ・サステナビリティサイトを開設し、マテリアリティを公表
- ・同サイトにて、TCFD提言に沿った情報開示を予定
- ・健康経営優良法人認定取得に向けた計画進行

当社サステナビリティサイト

Home > サステナビリティ > SDGs

SDGs

萩原電気が「プロ」であることは事業活動を通じて、SDGsの達成に貢献します。そのために「品質・技術やリピータの需要」を察見し、経営理念をより高次元のものとするべく、品質と安全性の確保、最新技術の習得や開発能力、製造技術の向上に努めています。未来に対する自らのコミットメントを具現化するとともに、お客さまの要望や変化に迅速かつ柔軟に対応し、持続可能な社会の発展に向け、貢献を続けてまいります。

HAGIWARA 事業紹介 企業情報 IR情報 サステナビリティ ニュース 採用情報

萩原電気グループ、プロは、マテリアリティ（重要課題）への取り組みを通じたSDGsの達成への貢献を目指してまいります。

マテリアリティ	主要テーマ	SDGs
技術業務への対応による顧客価値向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 高い品質・性能は顧客の社会的実現への貢献 ● 長期にわたる顧客関係の立派な支えや安心性向上の実現に貢献 ● 重要顧客リポート・セッションが実現した顧客関係や顧客へのフィードバック 	
ガバナンスと組織体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本法第9条（株主総会）の強化 ● 内部統制（エス・アール・エル・エル・エル）の強化 ● コーポレートガバナンスの強化 ● 成長戦略の推進 	
人材の定着確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員エンゲージメント向上の推進 	
社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会貢献の推進と社会的責任 	

萩原電気グループ健康宣言

萩原電気グループ健康宣言

萩原電気グループが持続的に発展するためには、社員一人一人の心身の健康が不可欠です。健康であるからこそ、経営理念でもあります「創造と挑戦」を体現できると考えているためです。萩原電気のロゴの「i」は「人（社員）」をイメージしています。そして、その「人」を取り巻く円は人と人との関係を表し、それは「会社組織」であり、「取引先」であり、「地域社会」であり、そして「社会の発展」との絆です。萩原電気ロゴは人と人との関係の中で、社会から必要とされる会社であり続けることを意識しています。

以上の思いからも、当社は健康経営を通じて「社員が健康に安心して働き、社会に貢献し、必要とされる会社」を目指します。

萩原電気ホールディングス株式会社
代表取締役社長 石野 寺 存

- 健康増進施策**
スローガンは「はじめよう、健康習慣」とし、運動習慣の定着や生活の改善を目的とした各種オンラインセミナーやイベント企画など、継続的かつ自発的な健康行動ができるような施策に取り組みます。また、管理職への研修や様々な企画を通じて、会社全体の健康意識向上を目指します。
- 疾病予防（生活習慣病の予防）**
定期健康診断におけるフォローを充実させ、特に「気づかぬうちに進行する生活習慣病」を予防します。社内保健師がよりスピーディに、的確に、継続的にアドバイスすることで、きめやかな改善フォローを行い、社員一人ひとりの健康レベル向上を目指します。
- 通勤労働への対応**
通勤労働は心身へ大きなストレスをもたらします。現在、長時間通勤者への産業医面談の実施や、面談に基づく残業規制を実施していますが、今後はさらに「ワークライフバランスの充実と生産性の向上」を目的に、様々な施策を実施します。

2022年3月期 決算概要

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は過去最高更新

- 売上高は、**前期比23.9%増の1,584億円**で過去最高。
顧客の生産台数増加や商流移管などで、国内海外ともに成長。
- 利益面では、売上増加に伴う物流費等の増加があったものの、営業利益は**前期比25.6%増の43億円の最高益**を達成。

2023年3月期 業績予想

売上高は過去最高の1,870億円を目指す

- デバイス事業、ソリューション事業ともに成長の見込み。
- 成長を目的とした投資などを計画。前期のスポット案件利益の反動減等を織り込み、営業利益は1.3%減の43億円の見込み。

中期経営計画 進捗

重点施策に着実に取り組み、初年度は順調なスタート

- 初年度業績を踏まえ、概ね順調なスタートと評価しており、今期以降も各施策に地道に取り組む方針。

(補足資料) 収益認識に関する会計基準適用の影響

- システムの保守契約などの一定期間にわたりサービス提供することを履行義務とする契約において収益認識を実施するタイミングを変更。

(従来) 顧客の検収時点で収益を認識

(2022年3月期より適用) サービス提供期間にわたり定額で収益を認識

- とくにソリューション事業において前年比較時の見在目上でマイナスの影響あり。

(単位:百万円)

売上高影響額	2021年3月期	2022年3月期				前期比	
		実績	影響	影響除く			
デバイス事業	105,906	134,661	▲4	134,665	+28,759	+27.2%	
ソリューション事業	21,924	23,766	▲514	24,280	+2,355	+10.7%	
合計	127,830	158,427	▲518	158,945	+31,115	+24.3%	



創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する
ソリューションデザインカンパニー

引き続きご支援ご鞭撻を
よろしくお願い申し上げます

本資料のうち、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基き当社で判断したものであります。
予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。